

Q.2 ネバーシーズの粘度について

ネバーシーズには、粘度という指標はなく、「稠度(ちょうど)」という指標を使っています。

粘度は、周辺の温度条件やその他の条件(静止状態またはかき混ぜた状態等)で大幅に変化してしまうためです。

*例えば、周辺の温度が高ければ粘度は低く(柔らかく)なります。

一方、稠度は温度変化要因とは直接関係なく、グリースそのものの硬さを示す世界共通の指標です。

ネバーシーズは、グリースを25℃の温度下で、60回攪拌(かくはん)した後で試験を行う「混和稠度」と、これに対応している粘度単位「NLGI番号」で表しています。

NLGI番号は、NO.000～NO.6まであり、日本では000番のグリース、1番のグリース、と呼びます。

	NLGI番号 (低い程柔らかい)	混和稠度 (高い程柔らかい)	
柔	NO.000	445-475	
	00	400-430	
	0	355-385	
	1	310-340	ネバーシーズの値
	2	265-295	
	～		
硬	6	85-115	

*イメージは、「硬めの」はちみつや水飴のような感じです。

スプーンで持ち上げ、下に向けてもなかなか落ちてきません。